

第2学年 園芸科 学習指導案

熊本県立菊池農業高等学校 教諭 坂梨 友里

1 単元名 第2章 生活と草花の利用 1 草花の多面的利用

2 単元の目標

- (1) 生活や地域における草花の多面的な利用について理解する。(知識及び技能)
- (2) 草花が生活や地域のなかでどのように利用されているか関心をもつ。(思考力, 判断力, 表現力等)
- (3) 草花の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

私たちが生産する草花がすみよい町づくりに貢献していることを実感することをねらいとしている。草花が私たちの生活の中でどのように利用されているかを学ぶ。それがどんな目的で装飾、定植してあるのかを考える。また、草花のもつ装飾的特性や草花の色がもたらす心理的効果や実習しながら身に付く力などを考えながら学習する。実習で生産している草花が菊池市の幼・保・小・中・高、老人会、公民館などいろいろな場所に植えてあることを知りながら、生産者としてどんな生産の工夫やPR活動をしていくか、探究的に学習していく。

(2) 生徒観

2年園芸科は花の実物を五感で体験や活動を取り入れた内容やグループ討議などの授業展開に興味を示す。時間内に多くを書くことを苦手としている生徒も多く、ワークシートが必要である。全体への発問には1/3程発言できるが、分かった人は黒板や電子黒板に板書するという指示を出すと、意欲的に書きに来る生徒はいる。全員での積極的な学習のためには班での話し合い活動やプリントに答えを書いている生徒は当てて発言の促しも必要である。クロムブックの共有画面だと全員で入力できる。また、実物を見せることやイメージがわからないものは写真のスライドを見せるなどして効果的な理解を目指したい。アクティブラーニングで動きをつけた学習も大切である。

(3) 指導観

本単元の指導には、草花の購入額の減少や廃棄の増加しているグラフを提示してコロナ禍で草花が遠い存在となりつつある現状を知る。しかし、本来、草花はいろんな場面場所で活用されており、目的は生産園芸、趣味園芸、景観園芸などの他、コミュニティを育む市民園芸、病気や障害のある方の園芸療法等、社会園芸にも活用されていることを考え、理解したりしてほしい。住み続ける町づくりには草花が必要であり、本校が育てた草花がどう地域に活かされているかをHPや画像、資料の調査、活用写真の提供等で知ることによって、草花の重要性を実感してほしい。そして、生産者としてより高品質に栽培することや、毎年購入を楽しみにしてくださるお客様がいること、期待されていること、花にはストレス軽減や活気の向上の効果もあることを実感し、実習意欲にもつなげてほしい。また、買っていていなくても、地域に植えてある草花が菊農の草花とは知らなかったと言われなかったために、生産者の思い、草花のもつ効果、楽しみ方、等が書かれたリーフレットを作成して花を買っていただいた時に渡すことで草花をもっと多くのお客様に買ってもらうための発信やPRにとつなげ

ていきたい。栽培した草花が売れ残って廃棄しなくてもいいように、売れる工夫も経済には必要であること、売れ残った草花にも活用方法があることも考えてほしい。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

多様性・・・活用方法、花の持つ効果、園芸活動で身に付く力もいろいろある。

相互性・・・菊農の草花をいろんな方々が買っていただいて地域の町づくりにつながっている。

責任性・・・毎年、期待されている。責任もって高品質な花を育てよう。

・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力

花を購入する人が減り、生産農家も減っている、廃棄も増えているフラワーロスの現状。しかし、コロナ禍だからこそ、花は癒しであり、ストレスの軽減や活力の増進、身に付く力もある。グラフから読み取り、現状と課題を考える。

つながりを尊重する態度

私たちが育てる花は地域の方々がいっぱい場所に植え、飾ってくださっている。実際に菊池市文化会館に花を植えに行く。それが住みよい町づくりにつながっていること。本校のシクラメンなどの鉢花は購入された方から贈りものとして誰かの手に渡って喜ばれている。そんなつながりの基礎基盤を作っている生産者の私たち。重要な役割であることを実感する。

多面的・総合的に考える力

草花は生活空間の美化、贈り物として気持ちの伝達、草花を育てながら身に付く力、花を見る・扱うことで癒し、ストレス軽減、活力になる家庭園芸や園芸福祉、花を植えることでの交流活動などを行う市民園芸などの他、空気の浄化、気温上昇緩和、雑草抑制などの環境面の効果もある。多面的な利用や効果がある。

・ 本学習を通して育てたいESDの価値観

世代間の公正

色んな世代の方に購入してもらっている。とくに花壇用花苗は幼保小中高の園庭や学校花壇、地域の人たちがお庭に会社に、老人クラブで地域の花壇になど園児～老人会まで様々な年代交流や情操教育、市民のつながり作りの一環で活用されている。私たちが大切に育てていこう。

人権・文化を尊重する。

花を植えて楽しんだり、人にあげて喜んでもらったりする生活文化を大切にする。本校が行っている菊まつりの菊人形栽培のように地域の方に来ていただいて育て方や文化を高校生が受け継いでいる。趣味のガーデニングや学校の式典装飾も文化の一つである。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

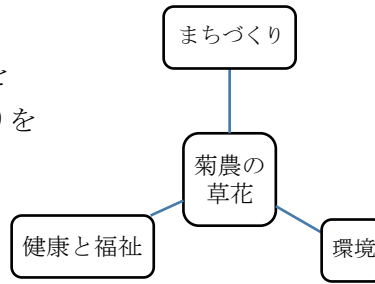
花はもらってうれしい、見て美しい、癒やしであり、幸せな気持ちが生まれるもの。菊農のシクラメンは贈り物として活用されている。花で心を豊かにストレス軽減や活気の向上効果。

自然環境・生態系の保全を重視する

花を植えることで雑草抑制、除草剤を減らす、空気の浄化、気温上昇緩和など、環境にもよい。

・達成が期待されるSDGs

- 3 すべての人に健康と福祉を
- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 2 つくる責任 つかう責任
- 1 5 陸の豊かさを守ろう



4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①草花生産の役割と動向について理解するとともに、関連する植え方等技術を身に付けている。 ②学んだり調べたりして獲得した知識を言葉や絵などを用いてそれらに関係づけながらまとめる技能を身に付けている。	①草花生産の役割と動向に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。 ②課題の解決のために考えたことをワークシートに表現している。	①草花生産の役割と動向について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ②草花の活用や効果等、意欲的に班で話し合ったり調べたことを発表したりしている。

5 単元の指導計画（全9時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 2	問：草花が生活の中で場面ごとに、どのように利用されているか考えよう。 家庭、学校、店舗や建物、冠婚葬祭、行事、地域や道路沿いに分類して班で考える。板書。 まとめ：多くの場面で活用されており、場所や場面で利用されている花の種類や形が違う。多面的利用の様子を写真で確認。草花園芸は趣味や美化だけでなく社会的な役割や交流活動になっている。	・各テーマのカードを引き、グループで話し合いする際、教師も進行やヒントを伝えに加わる。 ・センニチコウやラベンダーを触り、花は五感で楽しめる心地よさを実感。 ・私が撮影した写真を多く見せることで身近に感じさせる。	△ウ2
3	花の購入額や廃棄率のグラフから原因を考える。（フラワーロス） 問：花の需要が低下する中、私達は何のために草花を栽培しているのか考える。 草花の効用や園芸療法で期待される効果、農業実習で身に付く力があることを理解する。園芸がもたらす効果を写真で比較し、花の必要性を考える。花の植えてある道路、ない道路。花のある結婚式会場、ない会場。 まとめ：花や緑の効用はストレス軽減や活力の増進につながるグラフ提示。多面的利用は草花の効用があるからこそである。	・グラフから分かることを（ ）埋め文でヒント提示。 ・農業関連の廃棄はフードロスだけでなく、花のフラワーロスもあることを伝えることでSDGsとの関連を考えさせる。 ・生徒が出した以外も紹介する。 ・写真の比較を見せ、生徒にどちらがいいか聞くことで考えを促す。	△イ1 △ウ2
4	問：何のために草花を育てているかの生徒の意見に「責任感」とあった。草花の実習によってどんな働く力が身に付くのか考えてみよう。クロムブックのドキュメントを活用し、共有画面に意見を出し合う。どんな時にその力が身に付いた実感があるか発表する。 まとめ：農業実習で身に付く力は多くあり、いろんな力を身に付けながら成長している。面接	・発表しにくい生徒のために意見が出しやすいようにクロムブックのドキュメント共有画面に全員で意見を入力していく。 ・誰が書いたか分かるように出席番号を書くように促す。 ・将来働くための力になっていることを考えさせる。	△イ2 △ウ1

	の自己PRにもなり働くための力になる。		
5	<p>問：菊農の草花はどこへ？というテーマにどんな方が購入してどこに植えたり飾ったりされているか考える。意見を出し合う。実際にその場面の写真や販売先リスト、HP画像を見せる。幼保小中高など教育施設、道路沿い、福祉施設、会社、空港、老人会などを見て菊農の花を探す。</p> <p>問：なぜ菊農で買ってもらえるのか考え、意見を出し合う。SDGs とのつながりを説明する。地産地消で省エネ（フードマイレージの説明）、地域の卒業生のため、人件費無しの安価、丈夫で高品質などの意見を引き出す。</p> <p>問：菊農の花が植えてある小学校の先生が菊農の花だとは知らない実態から課題を発見。伝わっていない理由、どうすれば伝わるか考える。</p> <p>まとめ：草花が住み続けるまちづくりに貢献している。生産者として期待されているので責任をもって栽培しよう。そしてPRが必要。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活用されている場面の写真を提示することで発見させる。 ・販売先リストを見せることで多くの幼保小中高などの教育施設で活用されていること、会社、福祉施設、老人会の花壇などあらゆる場所を実感させる。 ・活用場面の写真をHPや関係者から提供していただき、生徒に見せることで栽培してきて頑張った成果や喜びにつなげる。 ・最後のまとめと感想で学んだことをまとめているか評価する。 	<p>△イ 1</p> <p>△ア 1</p>
6	<p>問：それでも売れ残ったらどうする？廃棄を出さないように多くのお客様に買ってもらうためにはどうするか？廃棄しないためにどんな活用ができるか考える。売れ残った花苗を花壇やプランターに植え、押し花を作成する。植えてなかった土地に植える。余った花苗も道路沿いに植えることで除草剤の減量、雑草抑制になり、陸を豊かにすることや廃棄をゼロなどのSDGs とつなげる。</p> <p>まとめ：育てた草花を責任持って最後まで活用促進。作成した押し花は子どもや福祉施設へ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経済と環境のためにも廃棄を出さない方法を考えさせた後、それでも残ったものの活用を考えさせる。 ・考えたアイデアを実践するように促す。 ・植える実習の前にSDGs との関連を意識させる。 	<p>△イ 1</p> <p>△ウ 1</p>
7	<p>問：菊池市文化会館に花の定植をしよう。様々なイベントで活用される文化会館に菊農の花を植えることが私たちからのおもてなしであり、町づくりの実践につながることを実感しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に作成した看板で掲示看板設置も行い、地域のために自分たちが考えたことを実践していることを体感させる。 	<p>△ア 1</p> <p>△ウ 1</p>
8	<p>問：植え方、配置など考えながら花壇にピオラを定植する。</p> <p>まとめ：今後のボランティアで除草や花がら取り、花が終わったら植え替えに行くことなどを伝える。「つくる責任つかう責任」育てた草花を責任持って管理していこう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に市民会館の方や地域とのつながりを実感するような声かけをする。 ・丁寧に植えられているか技術的な面も評価する。 	
9	<p>問：住みよい町づくりの一員、生産者としてどんなことができるか？私達の伝えたい思いは何か考える。購入者に渡す草花のPR書、草花の効果、私達生産者の思い、花の紹介、活用方法や処分方法などのリーフレットを作る。</p> <p>まとめ：SDGs の目標、生産者としての責任、住み続ける町づくりに貢献。意義を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人のテーマのリーフレットを作ることで話し合いを促し、よりよいものへの工夫や声かけをする。 ・作成したものを配布することで草花によるSDGs のPRや草花の良さを伝え、理解者を増やす目的を伝える。 	<p>△イ 2</p> <p>△ア 2</p>

